

平成 28 年度石狩市文化財保護審議会資料

1. 諮問答申案

- 1) 「古潭龍澤寺の鰐口」の市指定文化財指定について
- 2) 「これからの厚田区にふさわしい資料館のあり方」について

石狩市教育委員会

1. 諮問答申案

1) 「古潭龍澤寺の鰐口」の市指定文化財指定について

石狩市教育委員会

教育長 鎌田 英暢 様

石狩市文化財保護審議会

会長 村山 耀一

「古潭龍澤寺の鰐口」の市指定文化財指定について（答申）

平成28年6月6日付石教文第31号で諮問された標記の件について、石狩市文化財保護条例第4条第2項、石狩市文化財保護条例施行規則第4条第4項第1号に基づき、下記のとおり答申いたします。

記

1. 答 申

諮問の対象となった「古潭龍澤寺の鰐口」については、その歴史的な価値に鑑み、石狩市指定文化財として指定することは妥当と判断されます。

2. 指定物件の概要

- ①名 称 古潭龍澤寺の鰐口
- ②種 別 有形民俗文化財
- ③点 数 2点
- ④所有者 石狩市教育委員会
- ⑤概 要 別紙一覧の通り

3. 指定理由

「古潭龍澤寺の鰐口」は、石狩市厚田区古潭の龍澤寺に伝えられてきた鰐口です。古来、古潭は鯁漁場であり、隣接する押琴は厚田場所の中心的な寄港地となっていました。

近世、押琴には運上屋のほか弁天社があり、龍澤寺の鰐口は、この弁天社が明治初期に廃された後に龍澤寺に引き継がれたと伝えられています。

鰐口に銘のある村山傳兵衛は、近世における代表的な場所請負人で石狩場所、厚田場所の請負も行っていました。鰐口はただ近世から古潭に伝えられてきたということだけでなく、石狩市とはゆかりの深い人物が奉納したものです。

さらに北海道内で近世中期以前に遡る本州との交流を示す遺物は数少なく、またその多くは道南部に集中しており道央以北のものとしては希少で、石狩市のみならず、北海道史上でも極めて重要な資料と考えられます。以上のことから、当該資料は市指定文化財にふさわしいものと判断されます。

附：指定一覧(略)

2) 「これからの厚田区にふさわしい資料館のあり方」について

石狩市教育委員会

教育長 鎌田 英暢 様

石狩市文化財保護審議会

会長 村山 耀一

「これからの厚田区にふさわしい資料館のあり方」について (答申)

平成 28 年 6 月 6 日付石教文第 31 号で諮問された標記の件について、石狩市文化財保護条例第 4 条第 2 項、石狩市文化財保護条例施行規則第 4 条第 4 項第 1 号に基づき、下記のとおり答申いたします。

記

1. 答申

現在、厚田区内で建設が進められている道の駅は、平成 27 年 11 月にパブリックコメントが行われた『道の駅「(仮称) あったか・あいろーど」の整備について』において「郷土歴史資料・文化作品展示機能」が想定されております。また、平成 28 年 2 月にパブリックコメントが行われた「石狩市厚田多機能拠点形成ビジョン」においても「地域の歴史・文化・自然資源に係る情報発信」が必要な機能の一つとして位置づけられております。

このように道の駅に設置される展示施設は、計画当初から道の駅の重要な機能の一つとされております。

こうした経緯と地域の期待を考慮すると、この展示施設は、厚田区の資料館としての役割を担い、道の駅利用者に対して厚田区を中心とする地域の自然・文化・歴史に関する情報を広く提供するとともに、現地での体験学習、生涯教育につながる機能を有して

いることが望まれます。

具体的には、現地での体験や学習を重視し、道の駅が巡検やフットパスなどの出発点となるように、出発前のレクチャーやディスカッションができるスペースが必要と考えられます。また、それと同時に、現地にある厚田区の特徴的な地形や動植物・植生などの自然遺産や、遺跡・史跡・歴史的建築物などの歴史遺産について、情報を提供するコーナーを設けることが望ましいと考えられます。さらに、厚田の歴史をテーマにした展示コーナーとともに、厚田区の歴史文化を特徴づけている子母澤寛など厚田出身の文学者、文化人や著名人をテーマにした展示をおこなうことが望ましいと考えられます。

これらの機能は、平成 25 年 3 月に石狩市文化財保護審議会が答申した「これからの石狩市郷土資料の保存・展示のあり方等について」の趣旨とも合致するものと考えられます。

道の駅は、そのほかにも多くの機能があり、多数の来訪者が見込まれます。その影響力を最大限に利用して、展示施設の「地域の歴史・文化・自然資源に係る情報発信」という目的を果たすためには無料での利用が望ましいと考えられます。

道の駅に設置される展示施設が、厚田区はもちろん石狩市の石狩市全体の博物館活動や学習活動、さらには全道、全国への情報発信の拠点のひとつとして多くの人が訪れ、活用されることを期待します。